

2022年3月期第2四半期 決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～
<https://www.transgenic.co.jp>

2021年11月24日
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I. 2022年3月期第2四半期連結決算概要

II. 2022年3月期連結業績予想

III. 「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」の進捗状況

IV. 研究開発状況

V. 事業トピックス



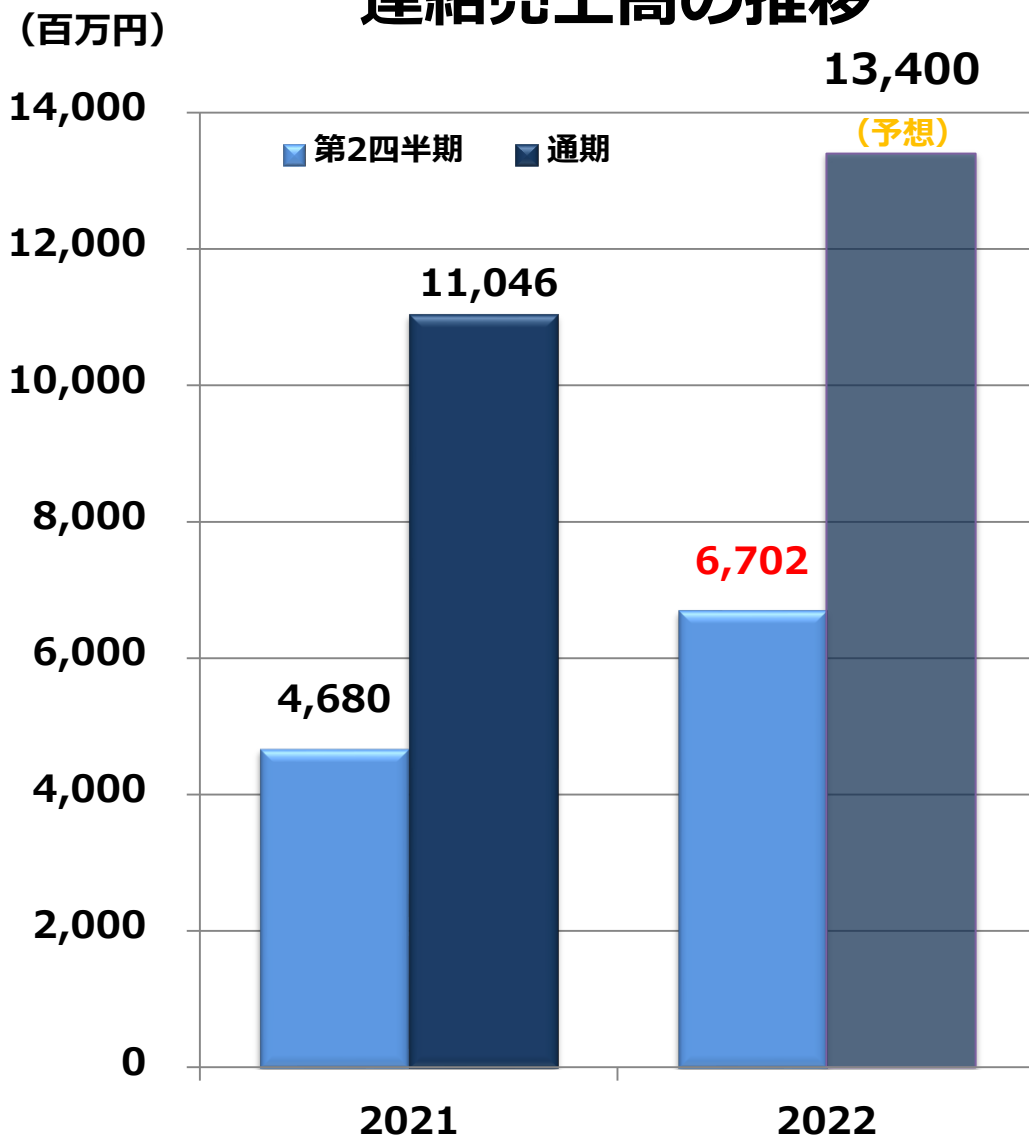
I . 2022年3月期第2四半期連結決算概要

2022年3月期第2四半期連結決算：ハイライト

➤ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、いずれも過去最高を大幅更新

単位：百万円	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減額
売上高	4,680	6,702	2,021
売上原価	3,758	4,138	379
売上総利益	922	2,563	1,641
販管費	881	961	80
営業利益	41	1,602	1,561
経常利益	30	1,540	1,510
親会社株主に帰属する 四半期純利益	25	981	956

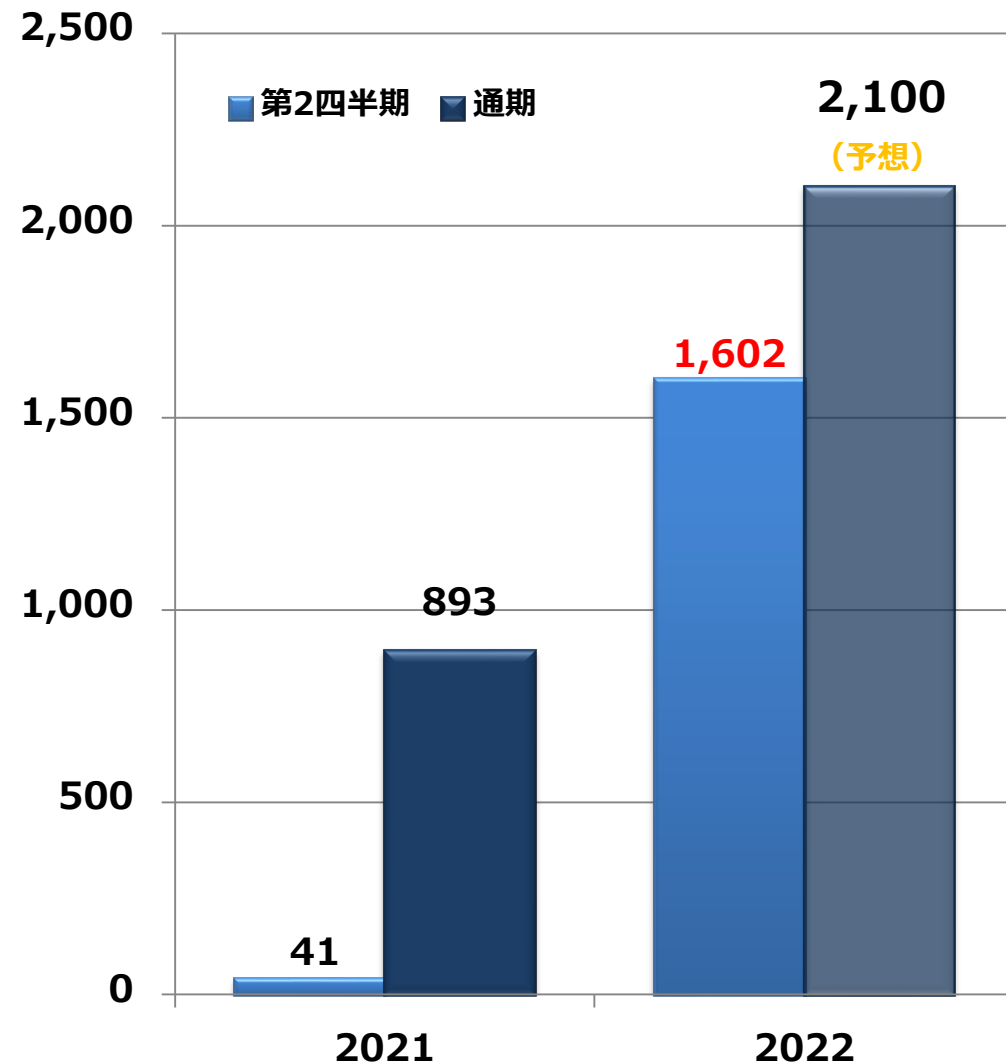
連結売上高の推移



連結売上高は、
前年同期比43.2%増の
67億2百万円

連結営業利益の推移

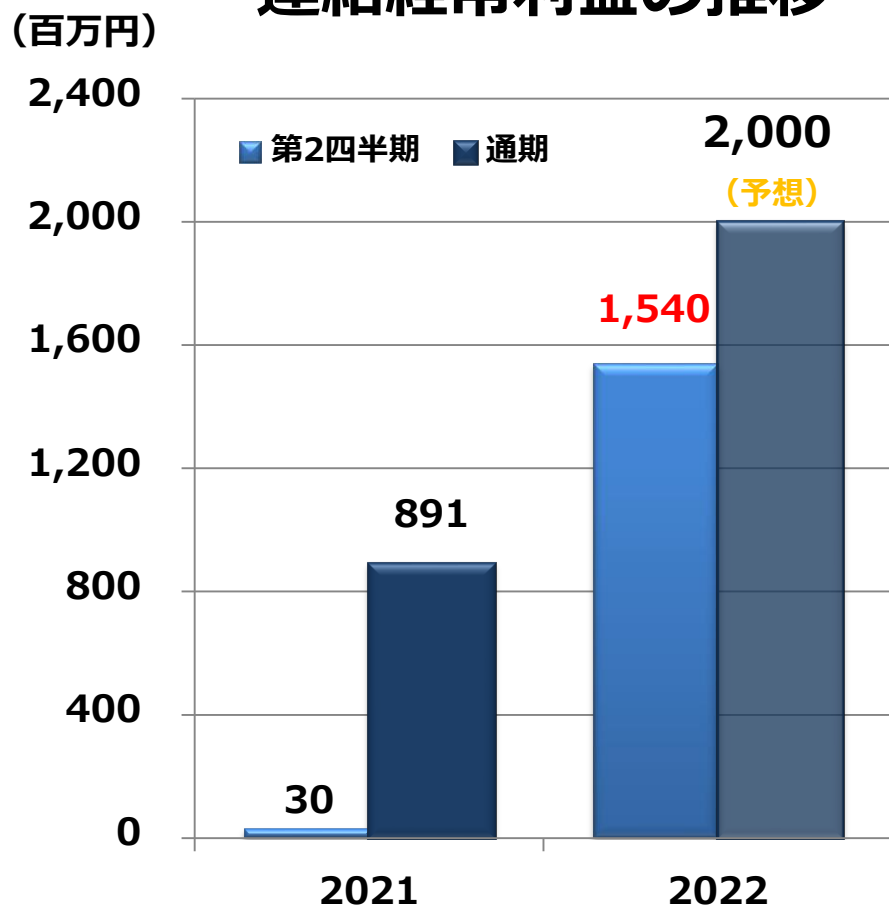
(百万円)



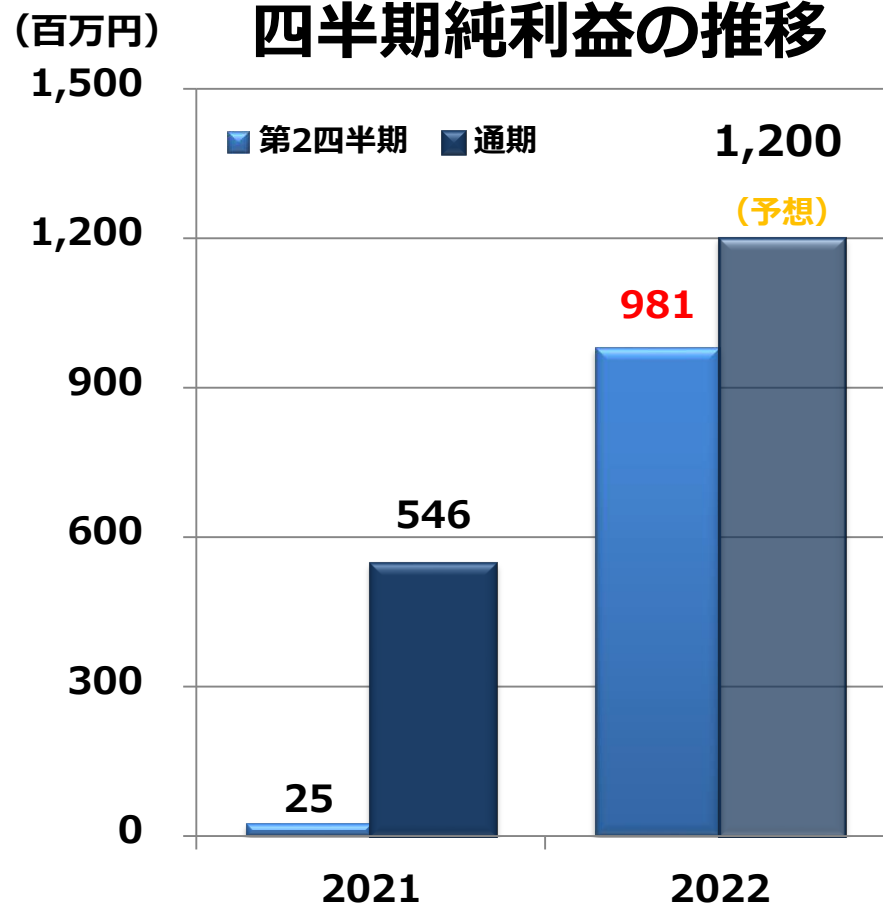
連結営業利益は、
前年同期比約39倍の
16億2百万円

連結営業利益の大幅増の結果、連結経常利益、親会社株主に
 帰属する四半期純利益についても前年同期比大幅増加

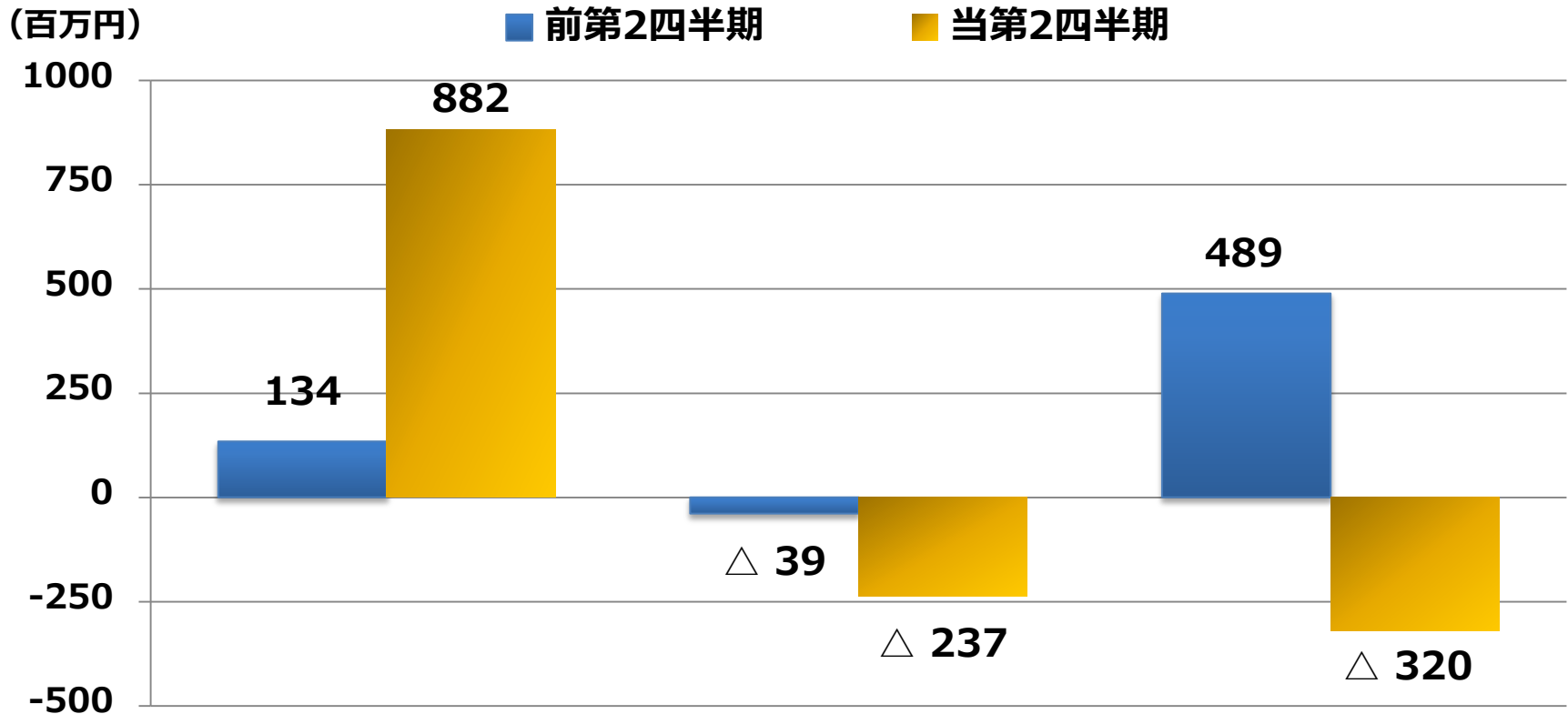
連結経常利益の推移



親会社株主に帰属する 四半期純利益の推移



営業CF増加を原資に投資実行、有利子負債の圧縮及び株主還元を実施



営業CF +882

税前四半期純利益1,540
売上債権・在庫の増加△689

投資CF △237

設備・M&A投資231

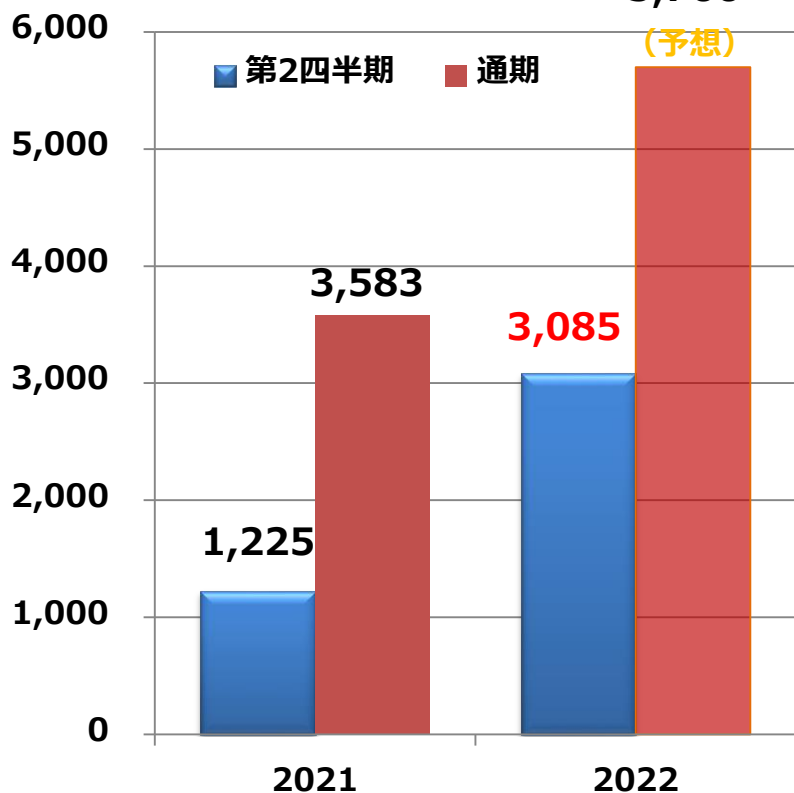
財務CF △320

有利子負債圧縮192
配当及び自社株買い等の株主
還元の実施128

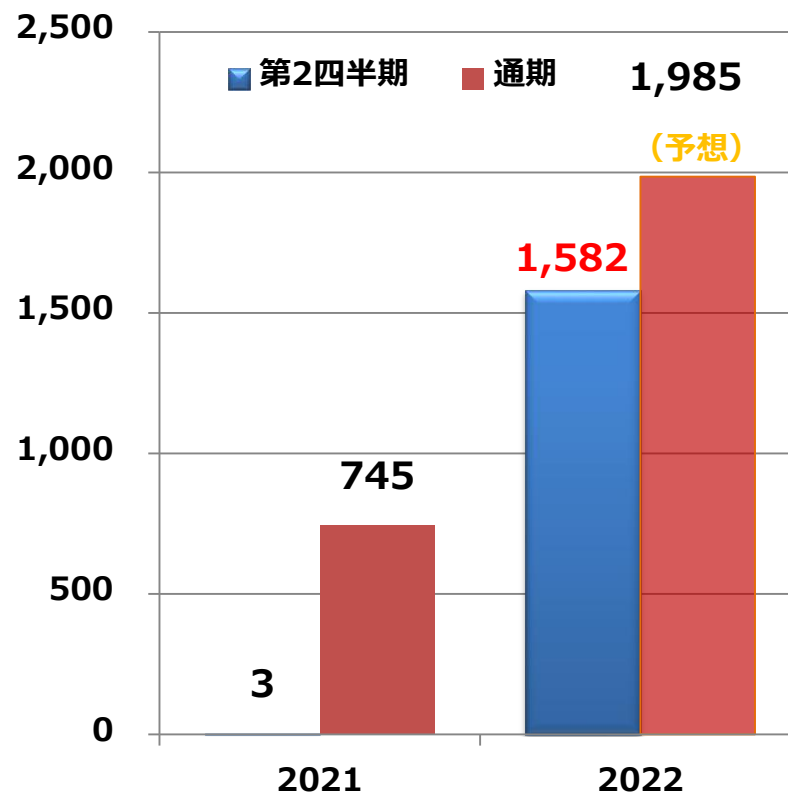
セグメント別業績概要：創薬支援事業

- 上半期：デルタ株感染拡大によりPCR検査受託数が高水準で推移した結果、大幅な増収増益を達成
- 下半期：新型コロナウイルス感染者数の減少を受け、PCR検査受託予想数を上半期の約10分の1で織込む一方、CRO事業の復調により相応の売上高及び営業利益を予想

売上高

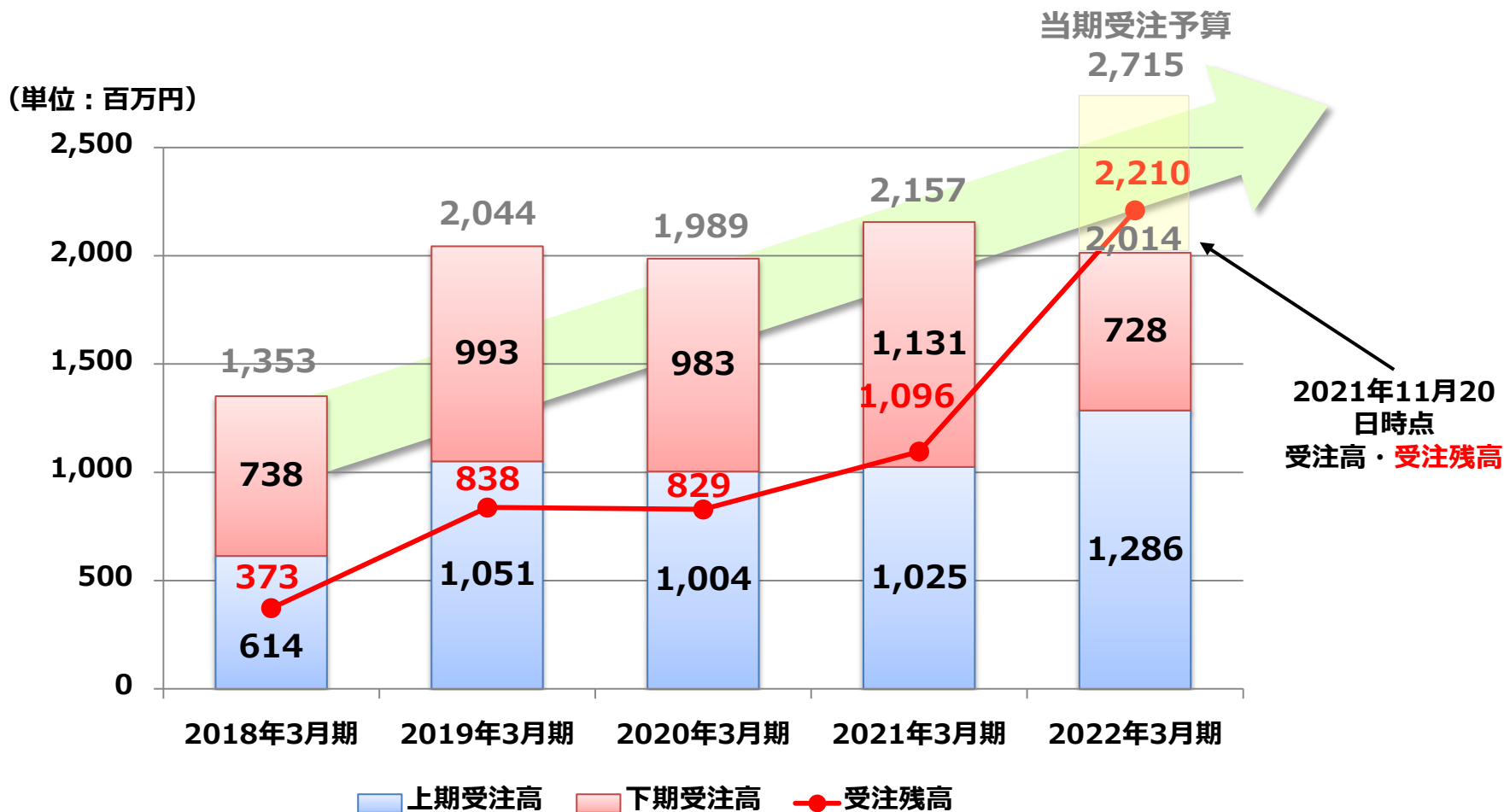


営業利益



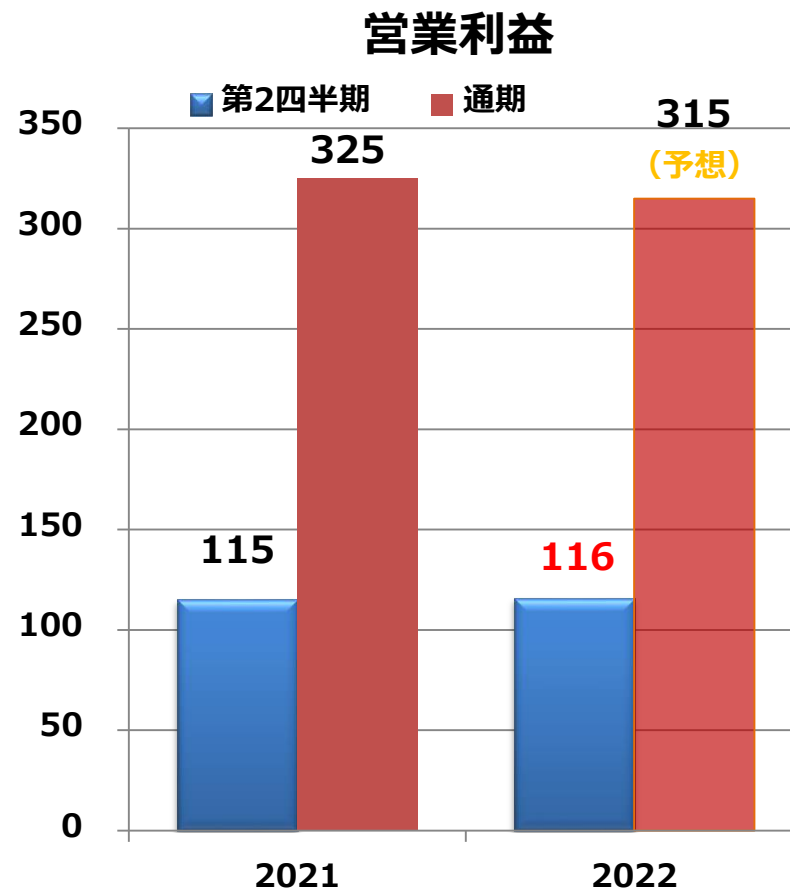
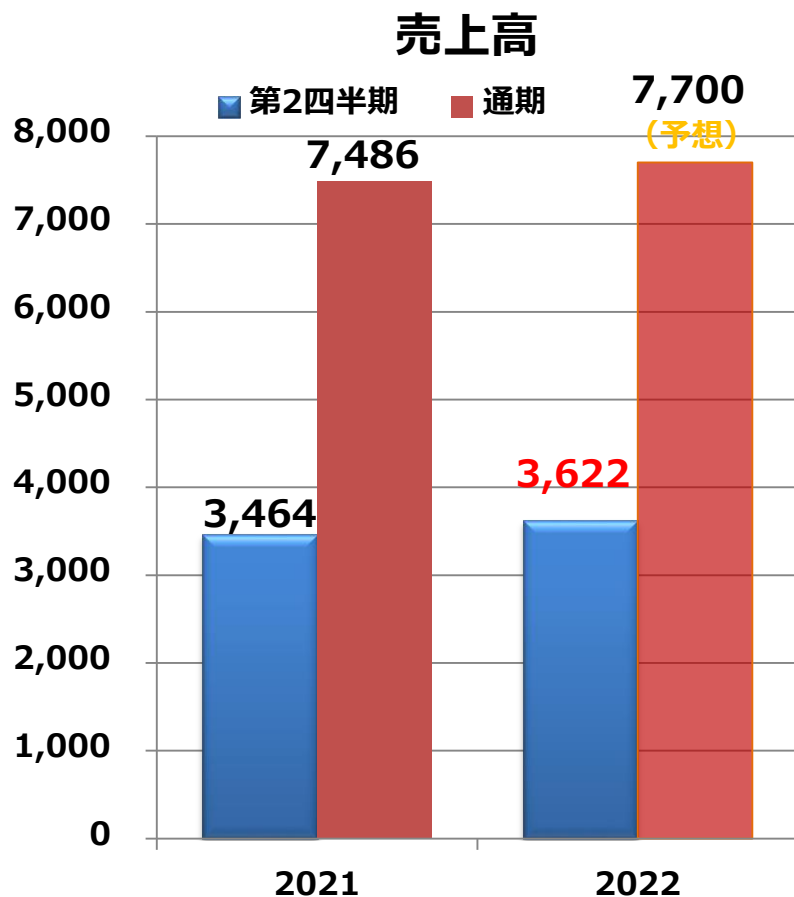
セグメント別業績概要：創薬支援事業（CRO事業の受注状況）

CRO事業の受注は、2020年3月期下期～2021年3月期上期の新型コロナウイルス感染症拡大を受け苦戦していたが、前下期から回復し成長トレンドに回帰



セグメント別業績概要：TGBS事業

- 上半期：EC事業が消費低迷を受け苦戦する一方、「その他事業」が経済活動の再開を受け売上高・利益を牽引。売上高は増収、営業利益は微増を確保
- 下半期：EC事業は、引き続き苦戦が予想される一方、「その他事業」の回復により、売上高は増収、営業利益は前期並みの着地を予想





Ⅱ. 2022年3月期連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想

- 通期業績についても、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、全て過去最高更新を予想

単位：百万円	2021年3月期 (実績)	2022年3月期			
		前回予想※1	今回修正予想※2	前回予想比	前期比
売上高	11,046	13,000	13,400	+400	+2,354
創薬支援事業	3,583	5,300	5,700	+400	+2,117
TGBS事業	7,486	7,700	7,700	-	+214
(エコマース)	5,283	(5,000)	(5,000)	-	(▲283)
(その他)	2,202	(2,700)	(2,700)	-	(+498)
本社・連結調整	▲23	-	-	-	+23
営業費用	10,152	11,300	11,300	-	+1,148
営業利益	893	1,700	2,100	+400	+1,207
経常利益	891	1,600	2,000	+400	+1,109
親会社株主に帰属する 当期純利益	546	900	1,200	+300	+654

※1 2021年7月13日公表業績予想

※2 2021年11月12日公表業績予想



Ⅲ. 「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」 の進捗状況

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」の進捗状況

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」 26頁抜粋

設備投資

(2022年3月期計画)^{※2}

- (株)安評センター : LC-MS^{※1}増設及び新規実験機器へ総額約1億80百万円投資予定
- (株)新薬リサーチセンター : 新規実験用機器へ総額約40百万円投資予定
- (株)ジェネティックラボ : 新型コロナウイルス検査拡充・変異株解析対応等で自動化PCR検査機器及び次世代シーケンサー等へ総額約2億60百万円投資

※1 LC-MS (Liquid Chromatography Mass Spectrometry)

LC-MS装置は、高速液体クロマトグラフ法 (HPLC) の一種に分類され、液体中の成分を固定相と移動相の相互作用の差を用いて分離し、質量検出器で検出する方法。

※2 2023年3月期以降も新規サービス導入、既存サービス拡充のため同水準の投資を継続予定。

進捗

2022年3月期投資計画	2022年3月期第2四半期設備投資実績	補足説明
LC-MS増設及び新規実験機器	鼻部ばく露吸入実験装置、実験大動物次世代デジタルテレメトリー ^{※1} システム (LC-MS11月末納入予定)	動物用CT他の納入については2022年3月までに終了予定
新型コロナウイルス感染症検査拡充・変異株解析対応等	新型コロナウイルス感染症検査関連機器 (リアルタイムPCR、次世代シーケンサー)	投資完了

※1 テレメトリーとは、遠隔操作で計測することで、非臨床試験においては実験動物に計測装置を装着し、無麻酔・非拘束条件下で血圧、心拍数、心電図を測定すること。

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」の進捗状況

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」 26頁抜粋

研究開発

【(株)安評センターにおける重点開発テーマ】

- ・ コロナウイルスレセプターヒト化マウス
- ・ 肝臓ヒト化マウス

【医化学創薬(株)における重点開発テーマ】

- ・ 抗SARS-CoV-2スパイクタンパク抗体開発

進捗

研究開発計画		2022年3月期第2四半期進捗状況
新型コロナウイルスレセプターヒト化マウス	(株)安評センター	開発中 (21頁・22頁参照)
肝臓ヒト化マウス	(株)安評センター	開発中
抗SARS-CoV-2スパイクタンパク質抗体	医化学創薬(株)	開発中 熊本大学と共同研究中

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」の進捗状況

「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」 26頁抜粋

M&A

- ・従前同様に、現在展開している創薬支援サービスの補完・強化が期待できる事業体について、M&Aを継続的に検討する。

進捗

M&A計画

現在展開している創薬支援サービスの補完・強化が期待できる事業体について、M&Aを継続的に検討する

2022年3月期第2四半期実績

**株式会社ルナパス毒性病理研究所の株式取得合意によるCRO事業の強化
(2021年11月1日に子会社化)**



IV. 研究開発状況

モデルマウスの導入・開発状況

今後も積極的にモデルマウスの導入・開発を推進し、ラインナップの充実を図る方針

モデルマウス系統及び新規技術の開発
※自社または外部研究機関からの導入開発



ヒト化マウス

肝臓ヒト化マウス

熊本大・TG社

技術移転実施中

エクソンヒト化マウス

TG社

国際特許出願
受託サービス実施中

ACE2ヒト化マウス
(COVID-19研究用)

TG社

21頁・22頁参照

疾患モデル

夜型モデルマウス

産総研

個体販売中

アトピー性皮膚炎モデルマウス

兵庫医科大
三重大

受託サービス実施中
個体販売中

突然変異検出マウス

Mutaマウス

(株)日本医科学動物
資材研究所

受託サービス実施中※
(遺伝毒性試験)

※(株)安評センター

がん移植用マウス

変異GFP, 変異Lucマウス

京大

個体販売中

マーカーマウス

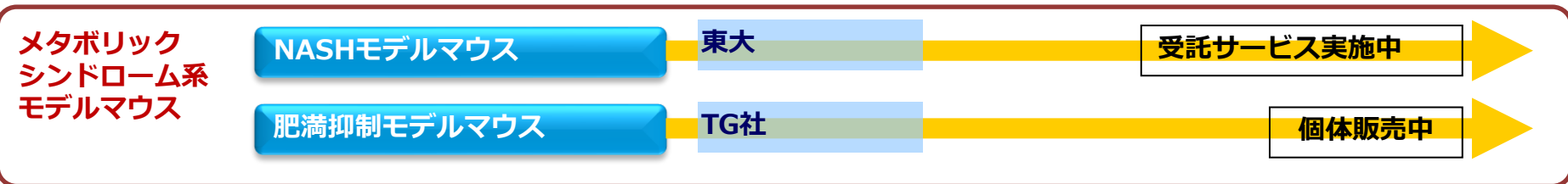
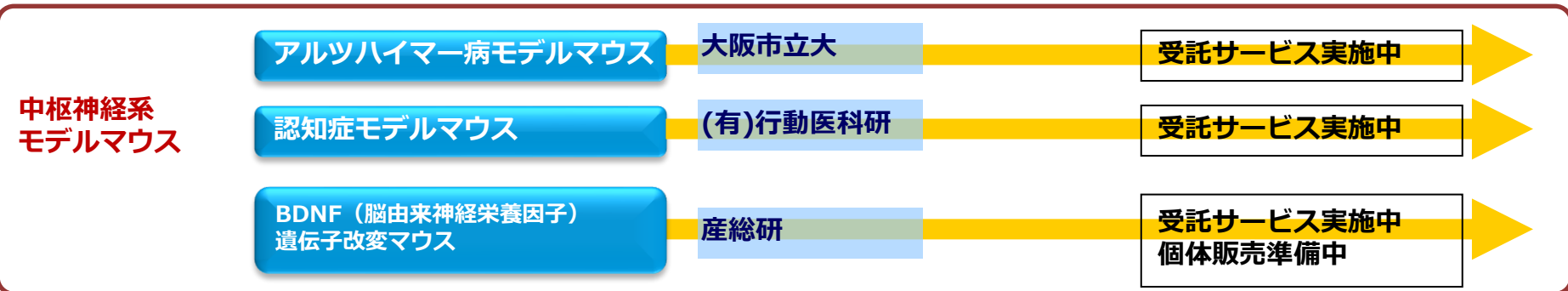
赤色蛍光タンパク質発現マウス

TG

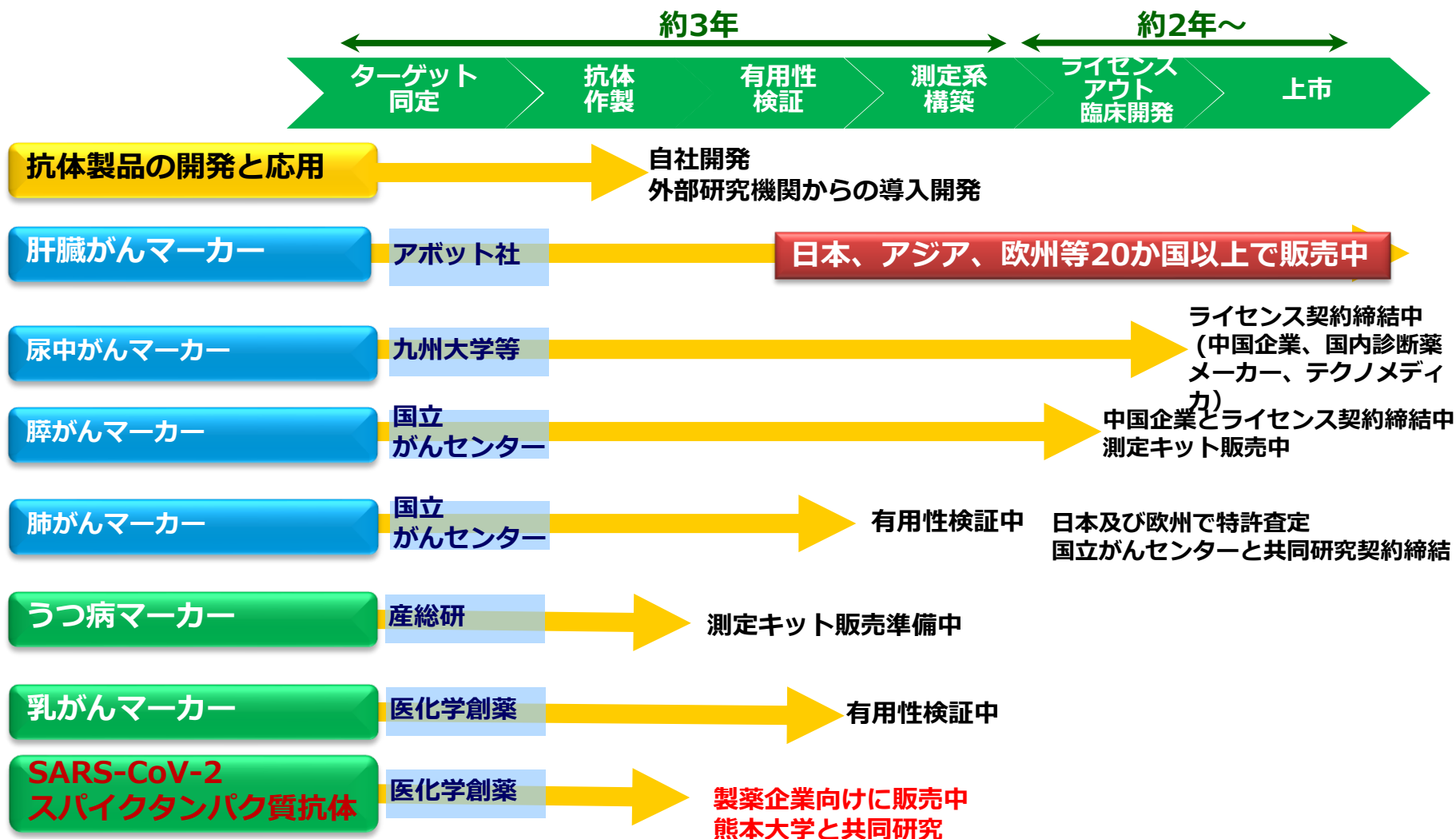
個体販売中

Overview of Research & Development Pipeline
モデルマウスの導入・開発状況

モデルマウス系統及び新規技術の開発
 ※自社または外部研究機関からの導入開発

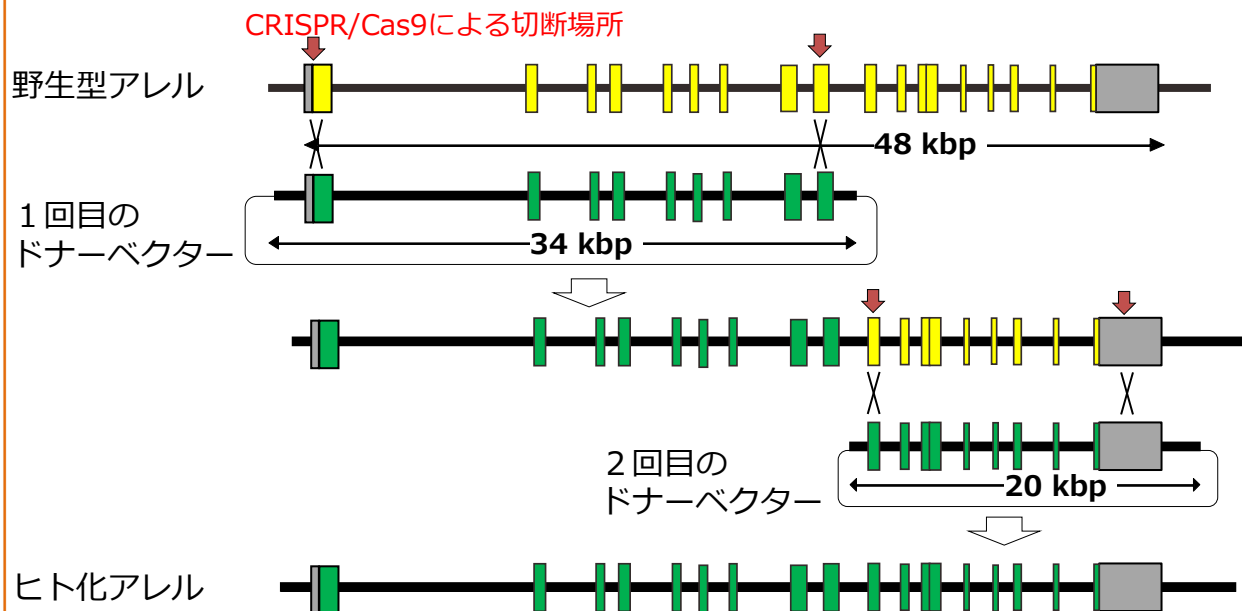


SARS-CoV-2スパイクタンパク質抗体に関する熊本大学との共同研究は継続中



ヒトACE2 遺伝子は大きくベクターの入れ替えに時間を要したが峠は越えた

マウスAce2遺伝子のエクソンヒト化のストラテジー



ヒトACE2遺伝子は48kbpと大きい

1回目は、第2（この中に翻訳開始点がある）から第10エクソンだけヒト化したドナーベクターを作製し、前半部分の入れ替え。正しいヒト配列を持つESクローンを選択し2回目へ。

2回目は、第10から第18エクソンだけヒト化したドナーベクターを作製し、後半部分の入れ替え

キメラ作製状況

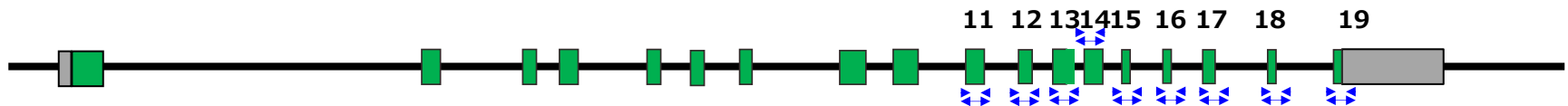
2021/9/16 : 4クローン(a7173, a7177, a7180, a7182) のES細胞を用いて、キメラマウス作製を実施

2021/10/4 : 出産を確認した。黒目キメラ多数で、生殖系列への伝達確率は高い

Clone No.	移植胚数	産子数
a7173	138個	33匹 (黒目19匹、薄黒目3匹、白目11匹)
a7177	138個	38匹 (黒目30匹、薄黒目1匹、白目7匹)
a7180	138個	20匹 (黒目18匹、薄黒目1匹、白目1匹)
a7182	138個	37匹 (黒目36匹、薄黒目1匹)

多数のヒト配列のキメラマウスの取得に成功しており最終工程に移行

キメラマウスのdirect sequence結果



chimera No.	ES clone No.	exon 11	exon 12	exon 13	exon 14	exon 15	exon 16	exon 17	exon 18	exon 19
1	a7173	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	a7173	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	a7173	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	a7173	○	○	○	○	○	○	—	○	○
5	a7173	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	a7177	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	a7177	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	a7177	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	a7177	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	a7177	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	a7180	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	a7180	○	○	○	○	○	○	○	○	△
13	a7180	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	a7180	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	a7180	○	○	○	○	○	○	○	○	×
16	a7182	○	○	○	○	○	○	○	○	×
17	a7182	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	a7182	○	○	○	○	○	○	○	○	×
19	a7182	○	○	○	○	○	○	○	○	×
20	a7182	○	○	○	○	○	○	○	○	○

キメラマウスからDNAを抽出し、塩基配列を決定した。

赤字の番号は、すべてヒトの配列であった。

赤字番号を交配し、最終工程であるF1を作製予定。

○ ヒト化された配列のみ

— exon未読領域あり

△ マウスの配列とヒト化された配列の2重波形

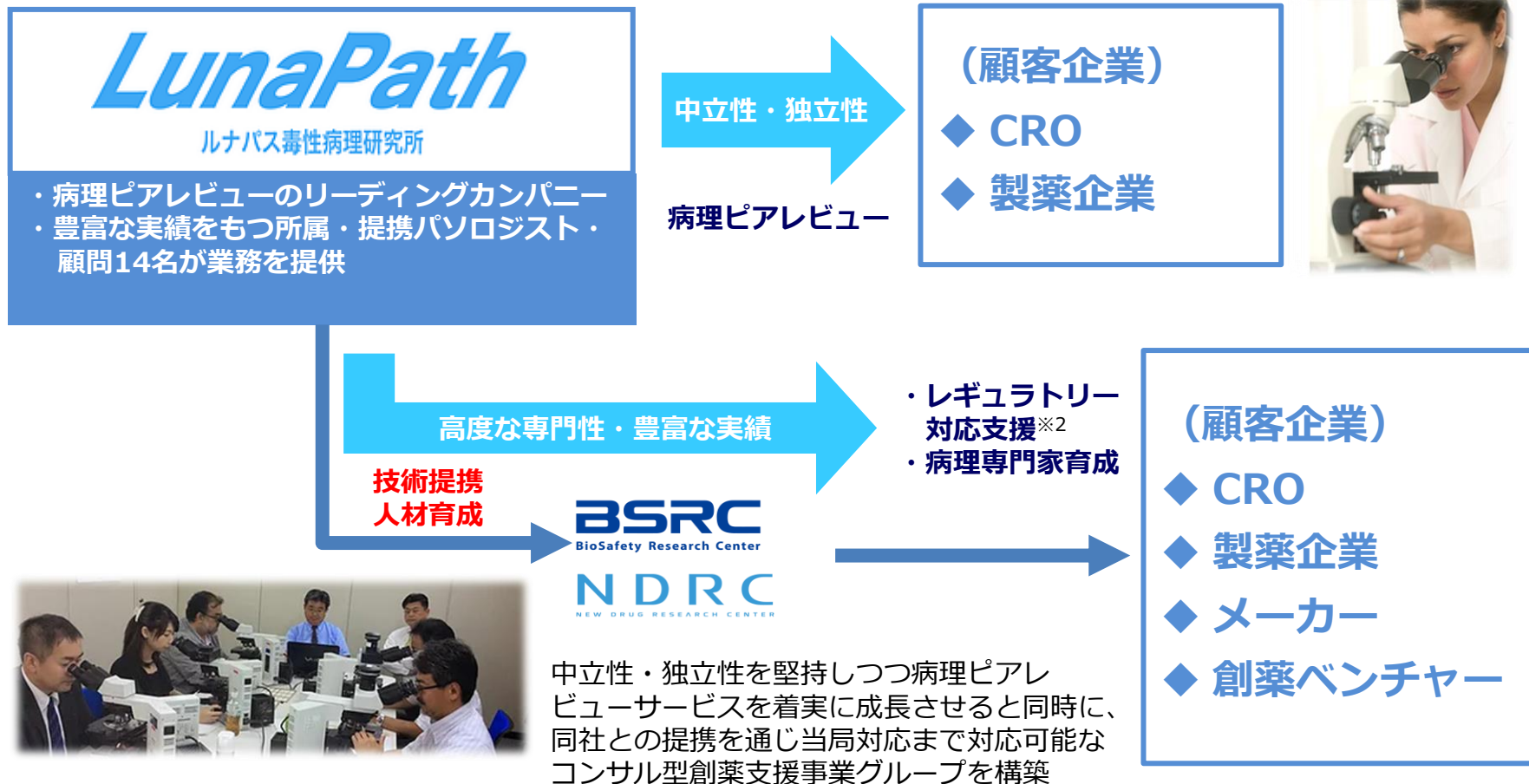
× マウスの配列のみ



V.事業トピックス

2022年3月期トピックス

2021年11月に、病理ピアレビュー※1サービス、病理専門家育成サービスを行う株式会社ルナパス毒性病理研究所の全株式を取得し、同社を子会社化



※1 病理ピアレビューとは、個人の経験・知識に依存する病理組織学的所見に対し、他の病理学者が公正に評価・論評することで、主観的判定のリスクを軽減し、診断の質と信頼性を高めるものです。2014年9月OECD GLP文書No.16病理ピアレビューガイダンスとして発行されており、欧州・米国において病理ピアレビューは既に大多数のGLP試験に組み込まれています。

※2 医薬品等の当局への申請資料レビュー、コンサルティング



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>